

涼風やカ一ばいきりづす

エイヤツト活た所が秋の暮

一茶の句

○ ○  
かく

十月の朝の空気に

あたらしく

息吸いそめ 赤坊のあり

啄木の三行短歌

○ ○ かく

待ちぼうけ

待ちぼうけ

ある日せっせと

野良かせぎ

そこへ兎が

とんで出て

ころり転げた

木の根っこ

○○かく

はるかか海の見えろ丘

月のしずくをすって咲く

夢のお花の月見草

花咲く丘よなつかしの  
○○か

にび色の空のもと ほど近い海の匂ひ

汪洋とたりの引き潮どきを

家鴨が一羽流れてゆく

右を眺め 左を眺め



かゝ



参考文F

競書用紙C使用

白雪のふりしく時はみよしのの  
白雪のふ利しく時者見よし農、

山した風に花ぞちりける  
やま新多可せ爾花曾千り介累

白雪

白雪のふりしく時はみよしのの  
白雪のふ利しく時者見よし農、

白雪のふりしく時はみよしのの  
白雪のふ利しく時者見よし農、  
山した風に花ぞちりける  
やま新多可せ爾花曾千り介累



秋の夕日に照る山紅葉

濃いも薄いも数ある中に

松をいろどる楓や蔦は

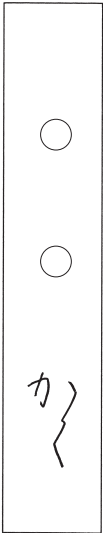
山のふもとの裾模様

○

○

かく

赤々と日はつれがくも秋の風  
白菊の眼にたそて見る塵もが





参考文献一

競書用紙B使用

あらしふく草の中よりけふの月  
あらしなく草のな可餘り今日の川起

